

**大学生の運動実施率向上**  
**のための提言**  
**～早稲田大学から考察する～**

2014/11/09

早稲田大学 武藤ゼミA

小山翔太・相原優稀・浅海萌子

田中直祐・藤井英貴

# 目次

◆緒言

◆現状

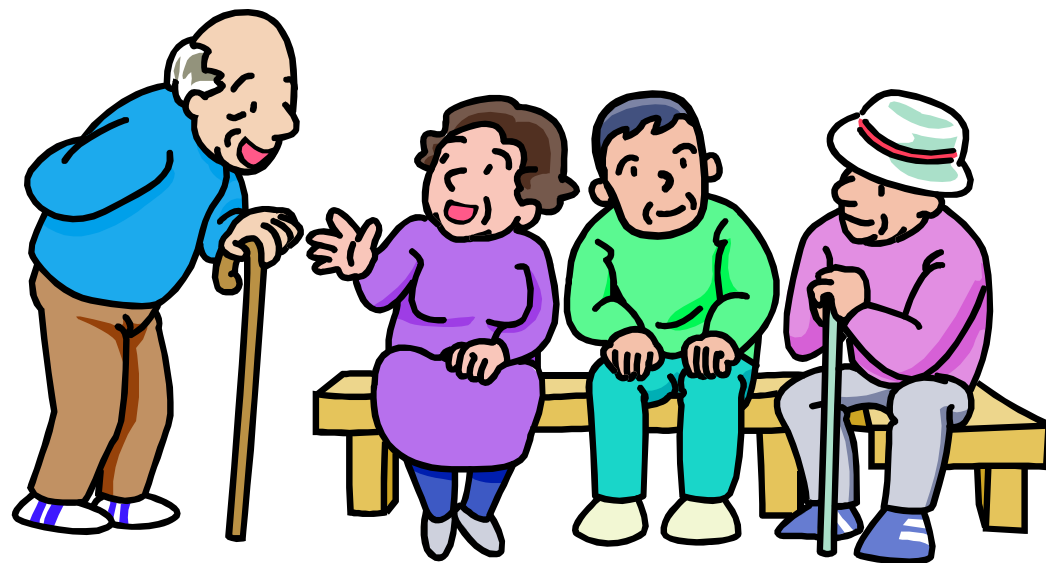
◆提言

◆提言からの展望

◆まとめ

◆参考文献

# 緒言—少子化の現状—



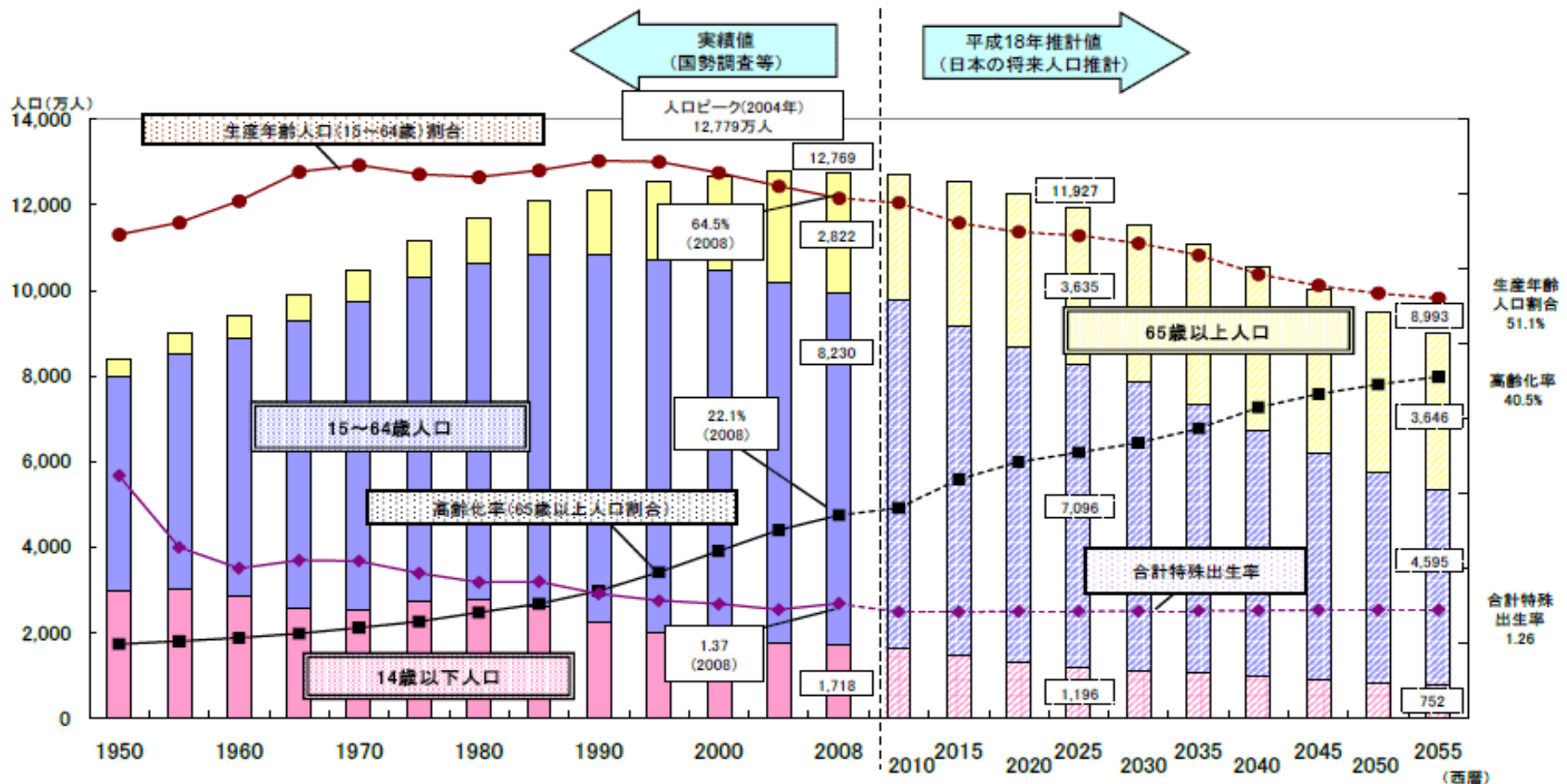
# 緒言—少子化の現状—



# 緒言—少子化の現状—

## 我が国の人口の推移

○我が国の人口は2004年にピークを迎え、減少局面に入っている。2055年には9000万人を割り込み、高齢化率は40%を超えると推計されている



少子高齢化が進むと、、、

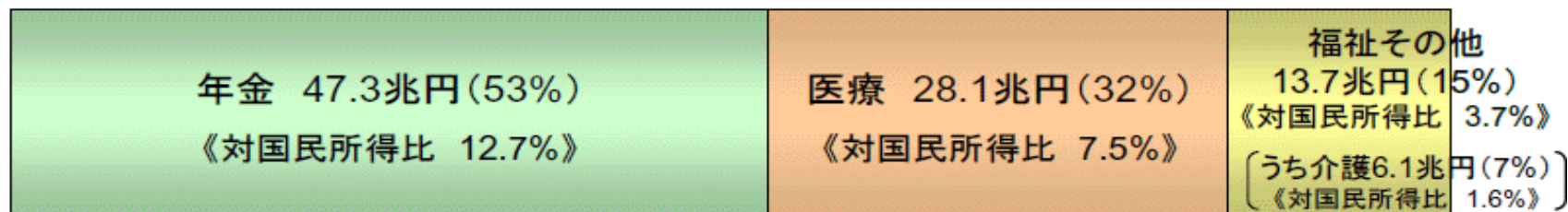
社会保障給付の増大

# 緒言—社会保障費—

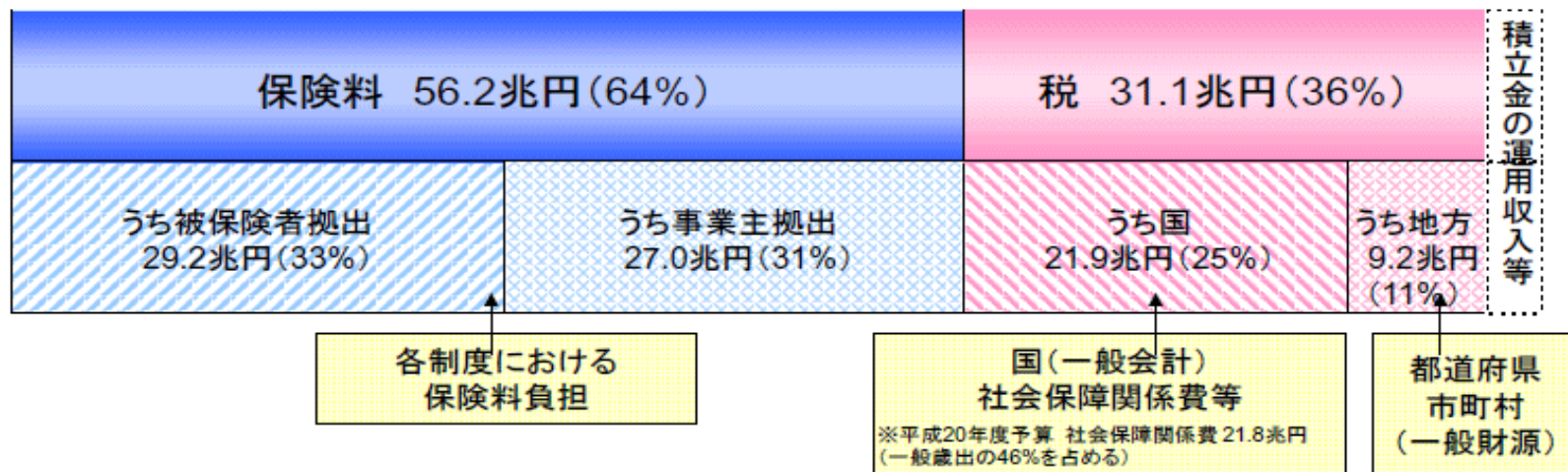
## 社会保障の給付と負担の現状

社会保障給付費 平成18年度(実績) 89.1兆円 (対国民所得比 23.9%)

### 【給付】



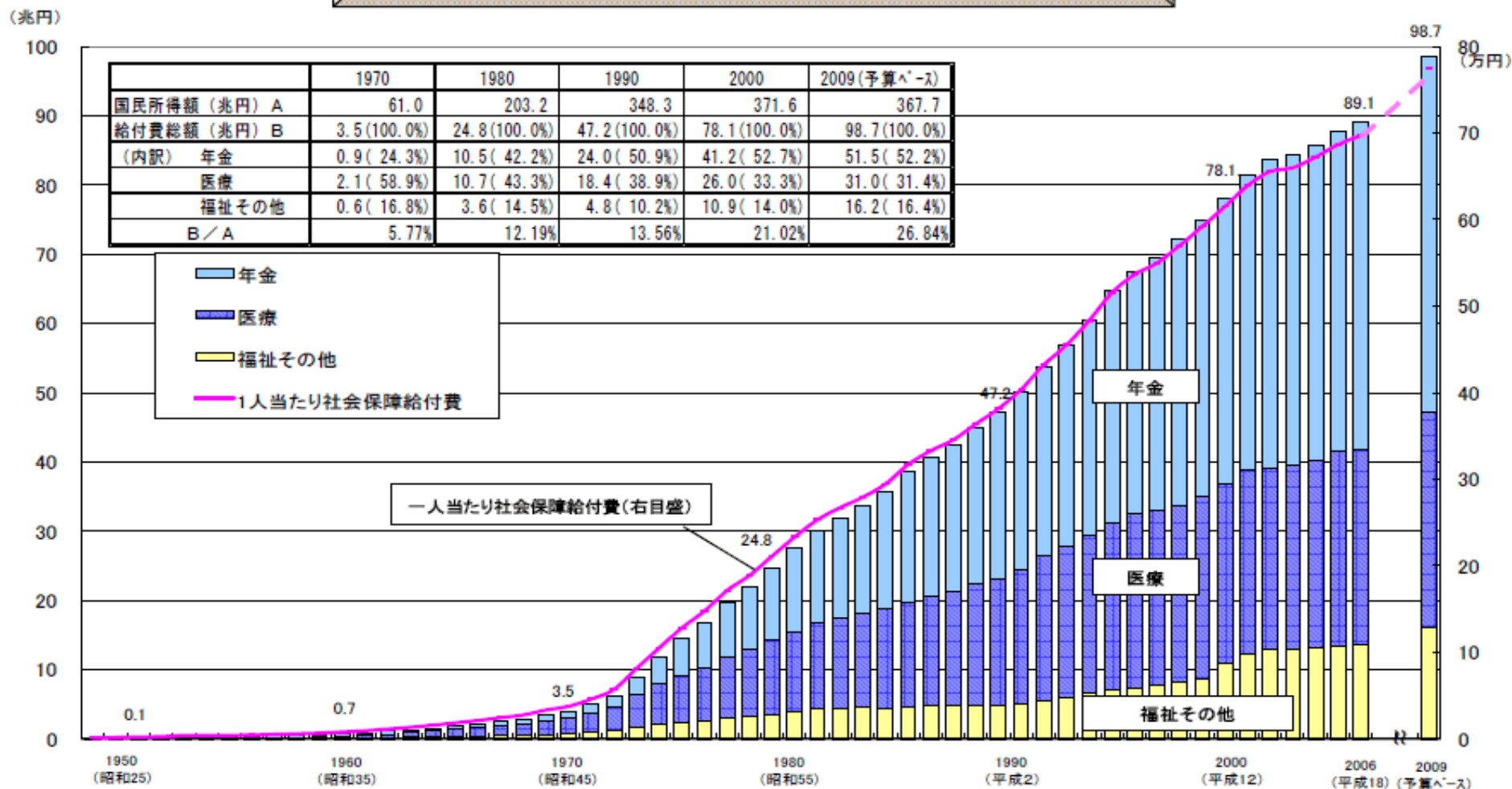
### 【負担】



※ 社会保障給付の財源としてはこの他に資産収入などがある

# 緒言—社会保障費—

## 社会保障給付費の推移



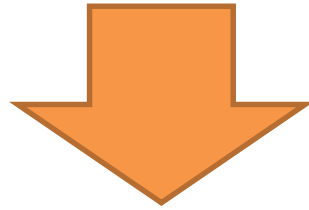
資料: 国立社会保障・人口問題研究所「平成18年度社会保障給付費」、2009年度(予算ベース)は厚生労働省推計

(注) 図中の数値は、1950, 1960, 1970, 1980, 1990, 2000及び2006並びに2009年度(予算ベース)の社会保障給付費(兆円)である。

(参考) 一人当たり社会保障給付費は、2006年度で69.7万円、2009年度(予算ベース)で77.5万円である。



医療費への負担を軽減したい



**生産年齢の拡大を目指す**

**健康の維持**



スポーツを活用！



# 緒言—スポーツ基本法条文—

『スポーツは、**心身の健全な発達、  
健康及び体力の保持増進、**

(中略)今日、国民の生涯にわたり

心身とまともに生活する

営む上で必要としている』

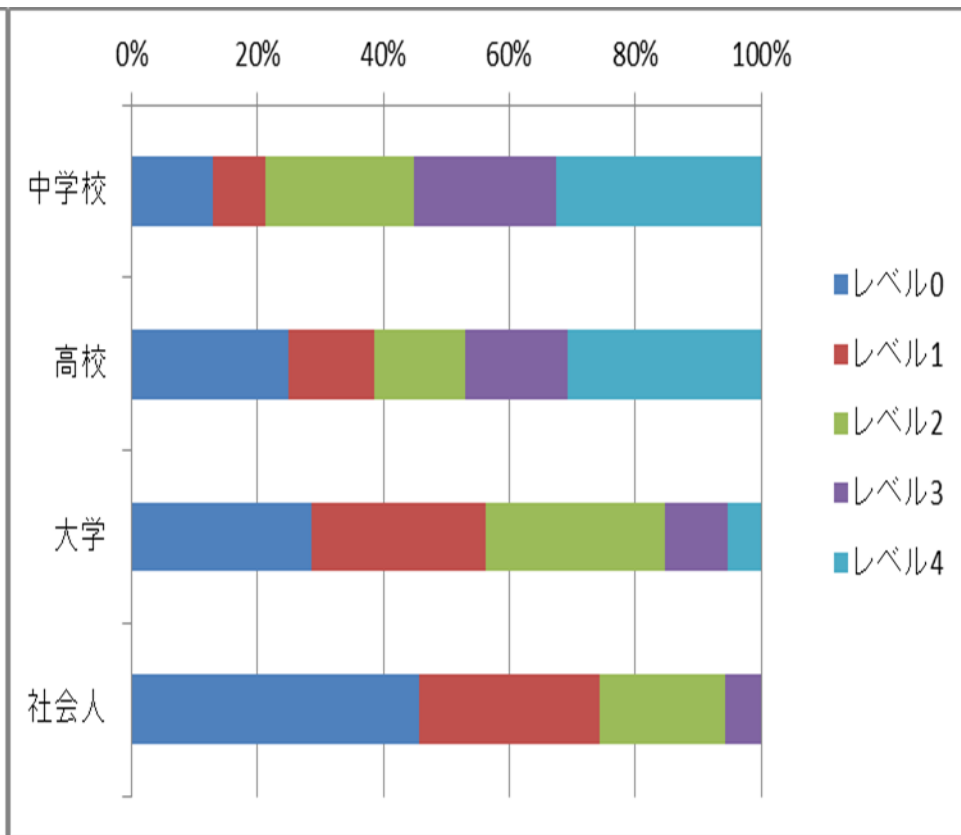
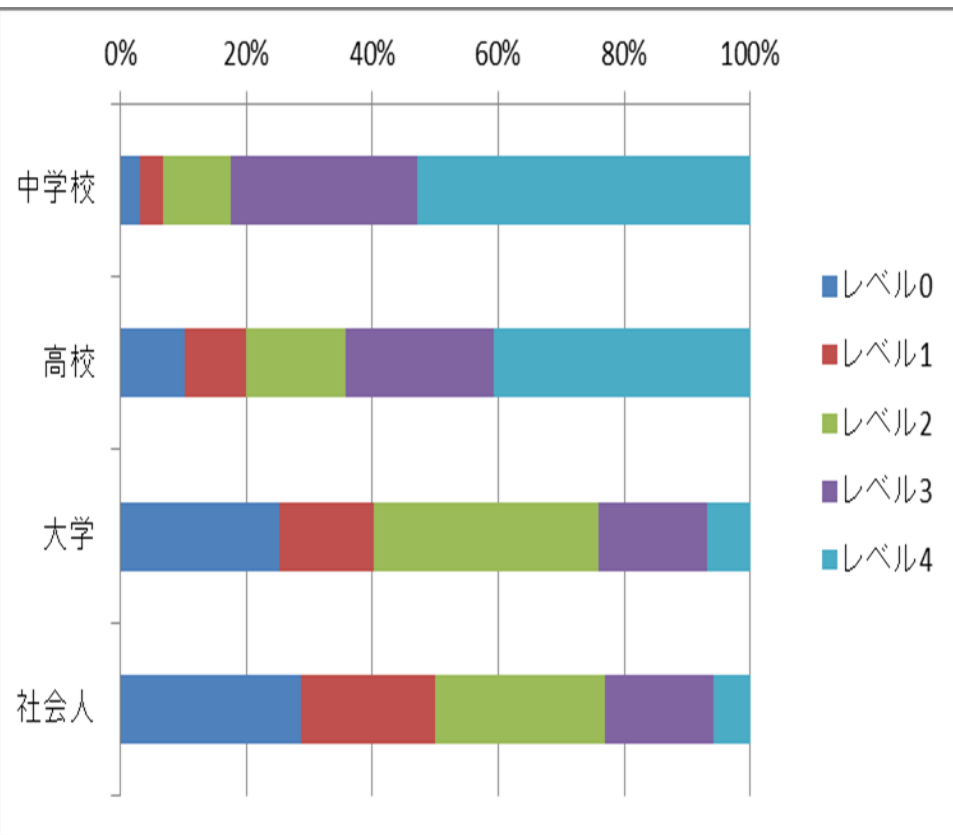


しかし!!!

# 現状—運動実施率—

左: 男性

右: 女性



(レベル)0: 過去1年間に全く運動をしなかった    1: 年1回以上、週1回未満    2: 週1回以上、週5回未満

3: 週5回以上    4: 週5回以上、1回120分以上

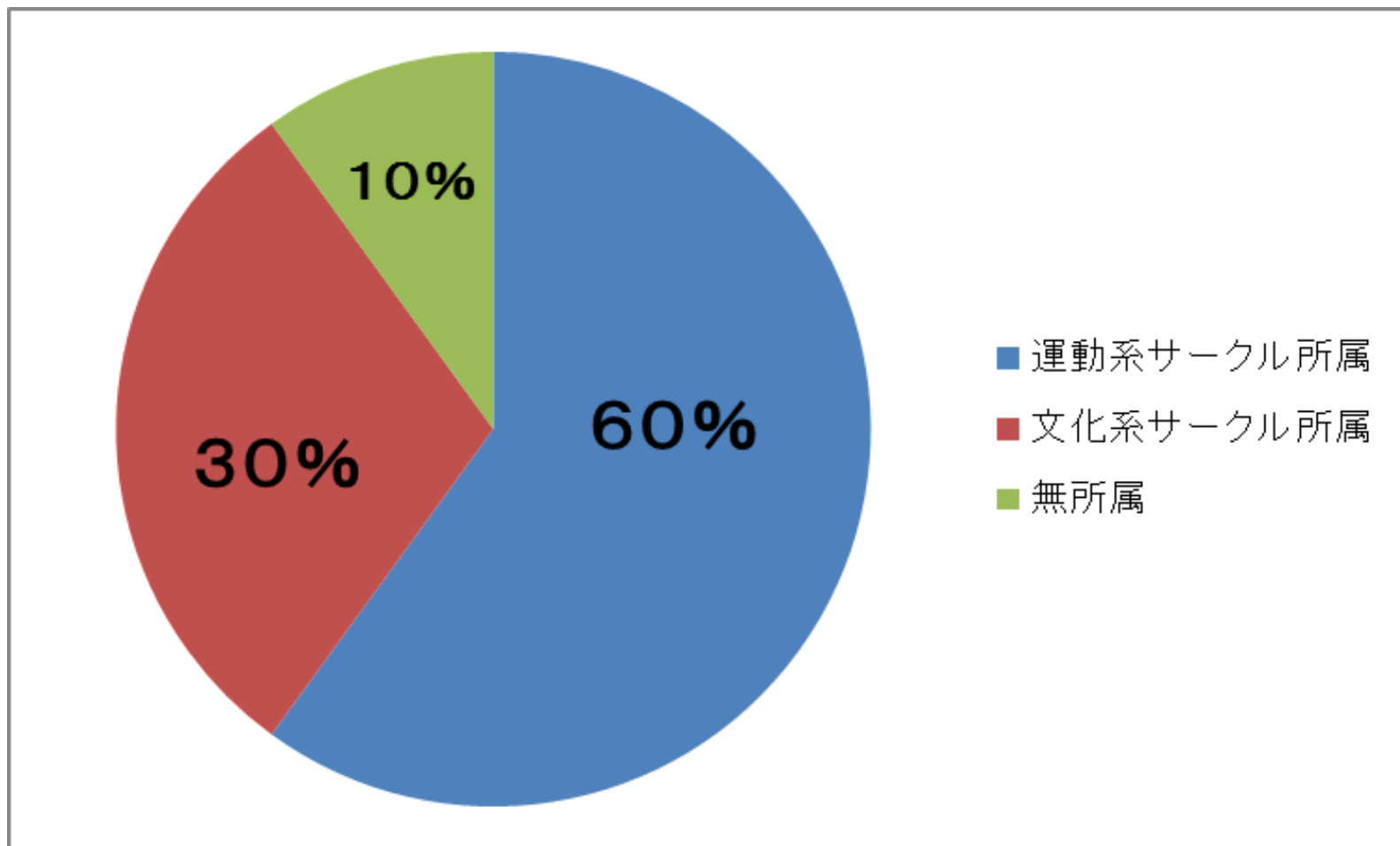
# 早稲田大学学部生を対象に アンケート調査を実施



# 現状—アンケートの概要—

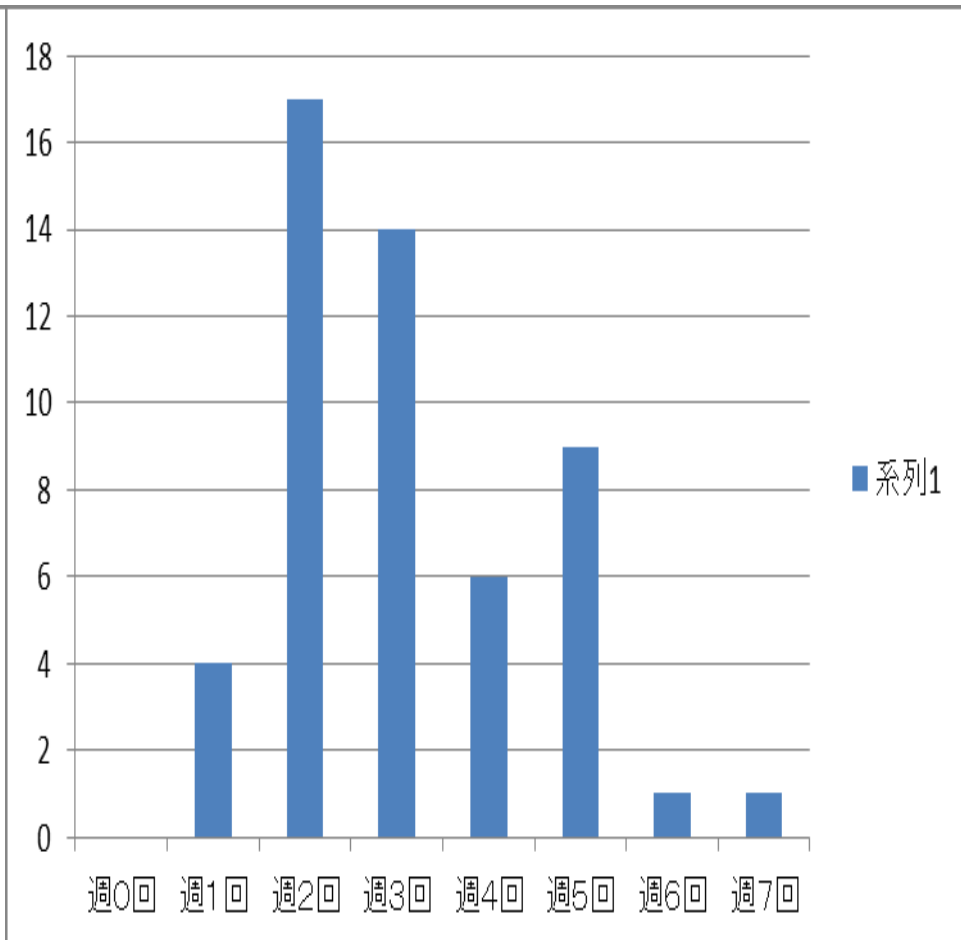
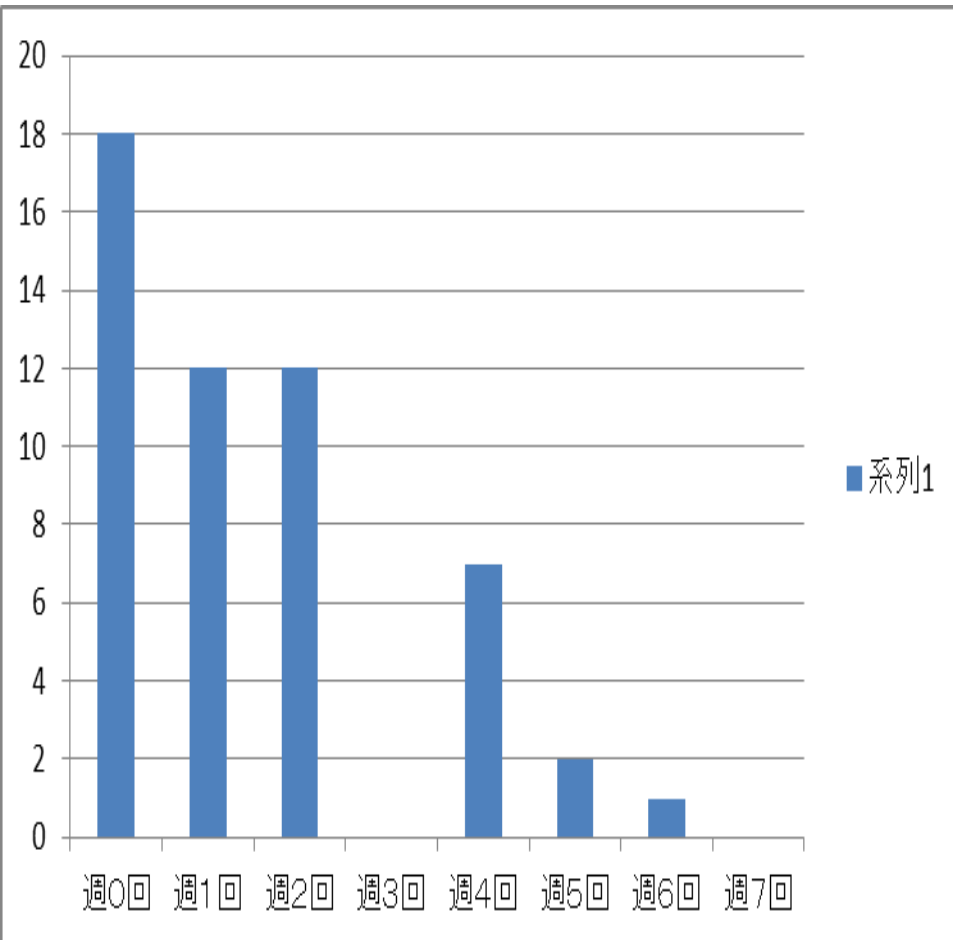
- ▶スポーツ科学部を除く早稲田大学生を対象
- ▶体育各部所属生は対象外
- ▶早稲田大学学部生数：約4万4000人  
体育各部生：約 2400人

# 現状—早稲田大学—



# 現状—アンケート結果—

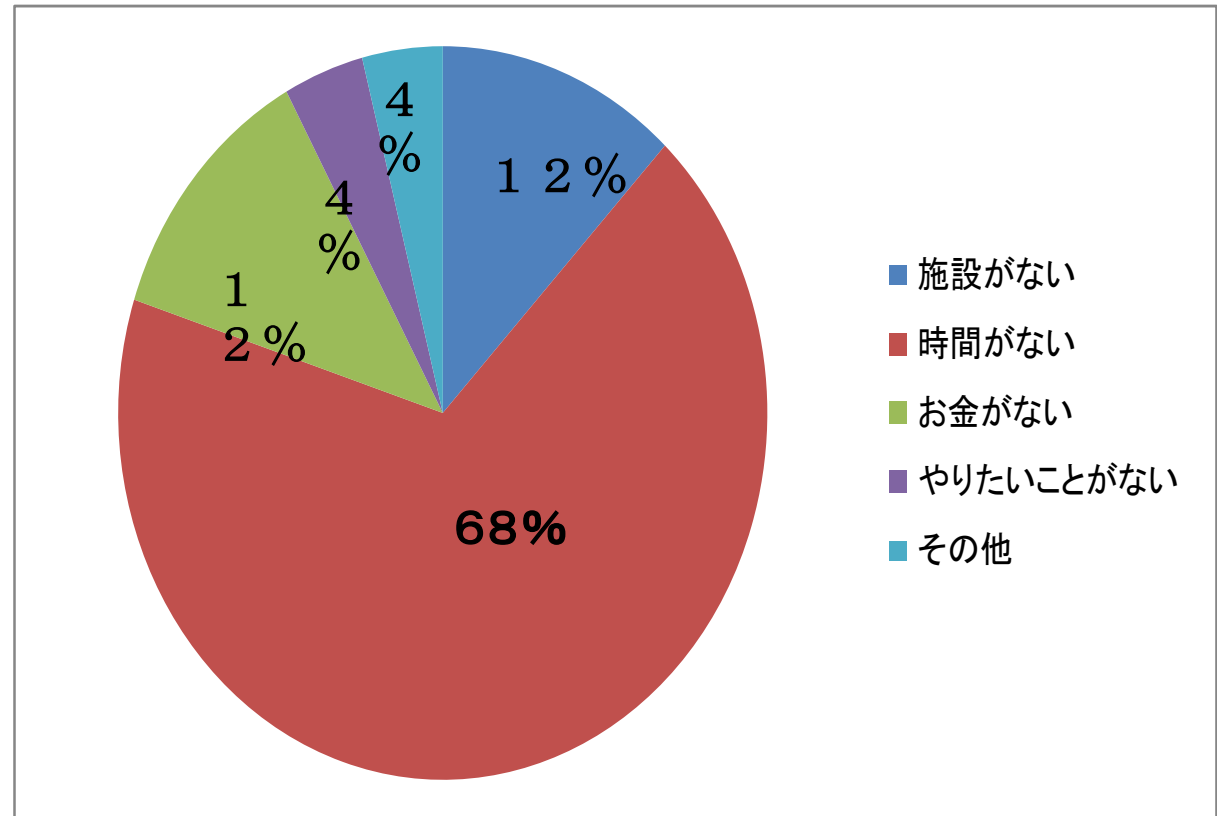
- 現在の運動実施率(左)と理想の運動実施率(右)





# 現状—運動できない理由—

- 時間がないこと
- お金がないこと
- 場所がないこと



# 現状一まとめ一

サークルに入ってるけれど、  
勉強やアルバイトで忙しくて  
なかなか活動に参加できない…



運動はしたいけれど、  
いい場所が見つけれない。  
お金もかかるし…



# 現状—まとめ—

時間がない

お金がない

場所がない

時間

お金

場所

大学施設で  
解決

A large, vibrant red starburst graphic with multiple sharp points, centered on a white background. The text is placed in the middle of this graphic.

**体育準必修化**

# 提言—体育準必修化—

- ▶現在の早稲田大学の卒業単位は124単位  
(教育学部、理工学部を除く)
- ▶体育を履修しなかった場合は8—10単位を卒業単位124単位に上乘せする。
- ▶年1回以上4年間継続して履修した者にはインセンティブとして実習単位と別で8—10単位を免除。

ターゲットは高校卒業まで運動していたが、  
大学進学を機に運動しなくなった人

# 提言—体育準必修化—

時間



アルバイトやその他私生活の  
影響はない

# 提言—体育準必修化—



お金



学費に含まれるので追加  
でかかる心配はない



提言—体育準必修化—

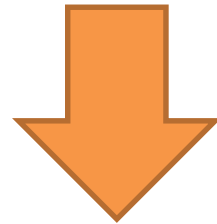
場所



大学施設で賄える

# 提言からの展望—社会—

運動実施率増加



国民の健康寿命の延長



医療部門の支出を軽減

# 提言からの展望—学生—

①時間・お金・場所を補い  
運動できる

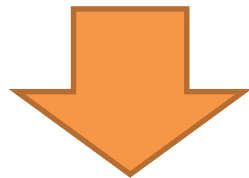
②卒業単位免除のインセンティブを  
得ることができる

# 提言からの展望—大学—

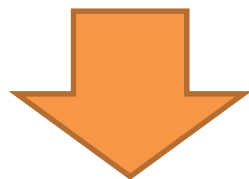
企業が求める人材  
コミュニケーション能力・協調性



就活で成功する学生  
社会に出てから活躍する学生の輩出



大学の知名度・好感度の上昇  
(就職実績)



優秀な学生の獲得





この政策を  
きっかけに

大学生が日頃から  
運動するようにしたい



# 参考文献

▶厚生労働省 政策レポート

<http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2009/09/03.html>

▶文部科学省 「スポーツ基本法(平成23年法律第78号)(条文)」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/kihonhou/](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/)

▶笹川スポーツ財団 「10代のスポーツライフに関する調査 運動・スポーツ実施レベル」

▶早稲田大学 「情報公開」

<http://www.waseda.jp/top/about/disclosure>

▶早稲田大学競技スポーツセンター

<http://waseda-sports.jp/unit/>

ご清聴ありがとうございました